子ども・若者…、そしてよこはまユースを応援してくださる皆さまへ　No.33

よこはまユースレター

発行／公益財団法人よこはまユース
tel.045-662-3716　fax.045-662-7645
URL　https://yokohama-youth.jp/
Eメール soumu@yokohama-youth.jp

子ども・若者エンパワメントセミナー2021 報告

3.11 を振り返って～あの日の話、明日の話～

２０２１年度のエンパワメントセミナーは、２０１１年３月の東日本大震災を、若者の視点から、若者とともに振り返りました。第一部は震災に関する著書のある作家の石井光太氏にご講演いただき、第二部では横浜と釜石の学生たちが意見を交わしました。（2021.12.11　於　関内ホール）

岩手県釜石市と映像をつなぎ、若者たちが「あの日」と「明日」を語り合いました。

【第一部】講演（要旨）

震災直後、釜石の遺体安置所では過酷な状況の中、ごく普通の市民たちが自分の役割に必死に向き合っていました。家や家族を失った人は周囲の助けで何とか心を支えていましたが、現実を受けとめられない人も少なくありませんでした。

町の復興が進んでも、被災者の心の傷は決して癒えることはありません。このイベントの実行委員の学生が被災者を取材した時、お前たちは何をしに来たんだと怒られたそうです。彼らは被災者に対する想像力やアプローチが足りていなかったことに気付けた、とても貴重な経験をしました。では私たちに何ができるのか。瓦礫の片付けや物資を送るのもいいですが、自分がしたいことや得意なことをすればいいと思います。その思いはきっと被災者の心に届くでしょう。

もし、あの時何もできなかったと思うのなら、そのモヤモヤした思いはいつか同じような場面に出会った時に取り返せばよいのです。人生はその繰り返しではないでしょうか。

司会進行は実行委員の大学生が務めました。当日は、若者たちが作成した映像を鑑賞したほか、釜石の高校生と、青森、福島出身の学生たちが「あの日」を語る場面もありました。

【第２部】ディスカッション（発言抜粋）

- 被災地に行って初めて知ることがたくさんありました。横浜のような都市部でも地域の繋がりを作っておくことが大切だと思います。〈横浜の学生〉
- 津波で流される町を泣きながら見ました。震災の記憶を伝えていくことが私たち世代の役目だと思います。〈釜石の高校生〉
- 例え津波で流された町でも、戻れてうらやましいと思ってしまいました。〈浪江町出身の学生〉
- 復興への思いや心の傷は人によって違います。そこに想像力を働かせ、考え続けてほしい。その思いが未来を作るのだと思います。〈石井光太氏〉

参加者からは「若い人がこのようなセミナーを作り上げたことに敬意を表します」「被災者が今も抱えている痛みを感じながら交流し、考えを深め、伝え続けていくことの大切さを感じました」などという感想が寄せられました。『YOKOHAMA EYE'S 2021』にも詳細を掲載します。

本事業についての問合せ
■事業企画課　TEL045-662-4170

活動レポート

横浜市野島青少年研修センター

『こども食育教室』（3月13日）

「じぶんでつくる春色ごはん」と題し、小学２年生から６年生までの児童が、旬の食材を使ったどんぶりやなめこのお味噌汁、フルーツ白玉づくりに挑戦しました。

実施にご協力いただいた「金沢子ども食堂すくすく」の皆さんの調理指導のもと、白玉をこねたり豆腐を切ったり初めての経験に戸惑う場面もありましたが、とてもおいしくでき、保護者も交えてみんなでいただきました。

「お母さんのために卵焼きをハートに切り抜くなど、可愛く仕上っていました」という感想を「すくすく」さんからいただきました。コロナ禍でまだまだ制限がある中、「すくすく」さんや参加者の協力により楽しく実施することができ、おなかも心もほっこりとした春の１日となりました。

青少年交流・活動支援スペース さくらリビング

『ネイルチップを作ろう』（3月23日）

普段フリースペースを利用している青少年の企画・運営で、『ネイルチップを作ろう』を実施しました。「性別問わず、たくさんの人に気兼ねなく参加してもらいたい」をテーマに、チラシも工夫しました。

当日は中学１年生から大学４年生まで、幅広い年齢層の青少年が参加してくれました。「推し」や「喫茶店」をイメージしたり、翌日に大学の卒業式を控えた１人は袴に合う色で…など、それぞれの個性や思いが光る素敵なネイルチップを作っていました。初対面同士でも「そのデザインかわいい！」などの会話が弾み、あたたかい雰囲気のイベントでした。

横浜市青少年育成センター

「対面とオンラインで地域活動」

若者を対象に「地域で活動する人や団体を取材して情報を発信する」という内容で、オンラインでできるボランティア活動を実施しています。コロナ禍のため、しばらくはオンラインのみでしたが、若者たちは対面での活動も希望していました。そのため昨年４月からはオンライン・対面あわせての取材や交流会、まち歩きなどに活動の幅を広げ、９月からは活動現場に伺い取材しています。対面交流ができるようになったことで、オンライン交流も活発になったように感じます。

今後も、若者たちが「地域の人たちと関わるのってなんかいいな」と感じられる体験を生み出していきたいと思います。

放課後キッズクラブ

『くるくるレインボー』（港南台第三小／3月7日～10日）

１年間の集大成として「棒をくるっと回転させると光沢のあるテープがフワッと広がり、シャボン玉のように見える」おもちゃ『くるくるレインボー』を作りました。

子どもたちがこの１年で磨いた工作の技を存分に発揮してもらえるはず…とは言え、細かい作業は、低学年にはやや難易度が高く「テープが絡まっちゃった～」「貼り方を間違えた…」という声も聞こえてきました。それでも、キッズクラブで培った技と集中力で全員が完成させることができました。

進級する子どもたちに、自身の成長を感じることで上級生としての自信をつけてもらおうと企画した今回の工作で、子どもたちはまた一つお兄さん・お姉さんになったようです。

Thank you for your support.

ありがとうございました！

2021 年 12 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの寄附金

◆ユース賛助会費　59 件　276,000 円

◆一般寄附金　16 件　157,978 円

●寄附金協力者（順不同、敬称略）

【団体】

神奈川県鋲螺協同組合/第一カーボン株式会社/川本工業(株)協栄会/三ツ境幼稚園/(有)武牛乳店/横浜野球連盟/柴町内会/(株)横浜スタジアム
横浜市立綱島東小学校 PTA/ブックオフオンライン/ボーイスカウト横浜市連合会/西区子ども会育成連絡協議会/西区ジュニアリーダースクラブ

【個人】

荒井清/新井春海/飯田正明/池田ふみ子/石間千賀子/犬塚善一朗/岩崎淳/大久保皓司/太田京子/大槻恵津子/沖津淑子/笠原光子/片岡喜久江/
片岡畔/金子剛士/川本正秀/橘川和夫/雲井耀一/椎野雅子/鈴木千代江/須藤守之/須藤健三/松本磨理江/竹内利恵/武久美子/出口晴基/中村一雄/
中村輝次/南部信治/沼尾実/野並直文/橋本康正/濱倉公子/原一義/古澤竜夫/松井祐次郎/松田利恵/眞鍋明文/三橋ツネ/和知典夫

近年「春と秋の期間が短くなり四季がなくなった」という話をよく聞きます。確かに、この間までコートを着ていたと思ったらもう半袖の季節。春物や秋物の服を着る機会が減った気がします。でも、街路樹や公園の草花に目を向けると四季の移ろいはそこで目にすることができます。忙しさの中でも自然の変化を感じる心の余裕を持ちたいですね。（まっきー）